

編集後記

環境科学部ができて13年がたち、年報もこのたび12号を発行することになりました。この間、我々をとりまく「環境」そのものと、それへのとりくみも大きく変わってきています。2007年にはIPCC(気候変動に関する政府間パネル)の第4次評価報告書が公表され、地球が温暖化していることやその原因において人為的影響が大きいらしいことが示されました。これらの内容は、科学的にはあくまでひとつの仮説であり、今後も実際のデータにもとづいて代

替仮説とともに検討を続けていく必要があるものと思われます。しかし、環境問題については、最悪のシナリオを想定して予防的に対策をたてることも必要とされています。本号の特集では、「温暖化へのとりくみ」について、5人の教員の方々にさまざまな観点から原稿を執筆していただきました。多忙な時期に原稿を寄せていただいたみなさまに編集委員からお礼を申し上げます。